



ご挨拶

校長 山本一雄

時下、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育研究にご協力ならびにご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本校では、これからの新しい時代を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指し、生徒にとって最適な学びを追究してきました。本年度は「自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒の育成」という研究主題を掲げ理論研究・実践に取り組んでいます。各教科等で育成する資質・能力をより汎用的なものにし、ウェルビーイングな世界の実現のために、様々な課題に対して学びを自ら発揮して解決できるような生徒の育成を目指しています。本研究主題での取り組み初年度に当たり、授業公開を通して理論と実践の検証を行いたいと考えています。

4年ぶりにご来校いただき、完全対面による授業公開となります。生徒の表情や空気感を直接感じていただきたいと思います。ご多用な中とは存じますが、多くの皆様にご参加いただき、ご指導ご助言を賜りたくご案内申し上げます。



研究主題について

研究主任 富永誠太郎

予測困難で不確実かつ複雑な現代社会において生徒が生き抜いていくためには、社会の変化に受け身で対応するのではなく、実現したい目標に向けて自ら課題を見つけ、解決し、行動する力が必要です。

そのような子どもたちを育てるためには、授業の主導権を徐々に教師から生徒へ委ね、生徒たち自身が、見方・考え方を自在に働かせ、資質・能力を自ら発揮させることができるような授業が重要だと考えています。私たちはそのような授業を「生徒が学びを発揮する授業」と呼んでいます。本年度は、この「生徒が学びを発揮する授業」に至るまでに、どんな単元や授業をデザインしていくのかにポイントを当て研究を進めていきます。多くの先生方から忌憚のないご意見をいただけることを願っています。



申し込みから当日の参加まで



QRコード



左のQRコードを読み込み、必要事項をご記入ください。最後に、送信ボタンをクリックしていただくと申し込み完了です。

※ いただいた個人情報は、当研究発表会の運営以外には使用いたしません。

※ 資料の準備の都合上、**10月10日(火)まで**にお申し込みください。

【資料代】 一般：1,000円 学生：500円

※ 資料代は当日会場で徴収します。

※ 駐車車を準備しておりますが、数に限りがございます。申し訳ありませんが、乗り合わせや公共交通機関のご利用等、ご協力をお願いします。

【会場までのアクセス】



問い合わせ



熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本中央区京町本丁5-12 TEL:096-355-0375 FAX:096-355-0379
担当:主幹教諭 若山 竜介
URL: <https://www.kumamoto-fuchu.ed.jp> E-mail: r-wakayama@educ.kumamoto-u.ac.jp



研究主題

自他の幸福のために、 自ら探究し、行動する生徒の育成

～生徒が学びを発揮する授業を見据えた授業デザイン～

学び続ける、未来の幸せを見据えて。



1.期日：令和5年**11月10日(金)** 13:00～16:30

2.会場：熊本大学教育学部附属中学校

(対面開催) ※ZOOM配信はいたしません。

主催：熊本大学教育学部附属中学校

後援：熊本県教育委員会(予定)

熊本大学教育学部情報教育研究会(予定)

熊本大学教育学部附属中学校同窓会(予定)

熊本市教育委員会(予定)

熊本大学教育学部同窓会(予定)

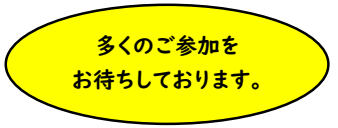
熊本大学教育学部附属中学校教育後援会(予定)

当日の日程について



13:00	13:30	14:20	14:35	14:55	15:00	16:30
受付	公開授業・実践発表	移動	基調提案	準備	分科会	

※基調提案は各分科会会場にて、テレビ放送で実施予定です。
※閉会行事は行いません。分科会ごとに終了となります。



公開授業・実践発表について



公開授業	教科等	授業者	学年	単元名	教科等からの提案	研究協力者	助言者
	国語	益田 俊男	3年	人は、何のために文学を読むのか？ ～「形」「百科事典少女」「故郷」での学びを通して～	子どもたちは、議論を中心に教科書の文学作品を読み深めてきました。各作品の議題は、「最後に教訓を付け加えるなら、どんな一文にするか」(『形』)。「作品に不可欠な『もの』ベスト3」(『百科事典少女』)。「○○が、○○を通して○○する物語」(『故郷』)です。その際、年間を貫く問いとして、「人は何のために文学を読むのか？」という問いを設定しており、それぞれの授業後に、各自でその答えを更新していきます。それにより、生徒が文学について「何のために/何を/どう」読めれば良いのかを実感していく授業を目指します。	山鹿市立山鹿中学校 後藤 葵 熊本市立託麻中学校 岩野 満 熊本市立江原中学校 杉崎 勢 熊本市立植木北中学校 小田 夏美	熊本大学教育学部 准教授 仁野平 智明
	社会	立川 桂佑	3年	現代の民主政治と社会	社会科学の本質である「民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成」を目的として、学びを発揮する授業を見据えた授業を提案します。本校社会科では、学びを発揮する授業を「獲得した概念が学習の土台となる授業」と捉えています。本年度は、生徒が概念を獲得する段階の授業を提案します。今回の授業では、現代社会の見方・考え方を働かせながら、議院内閣制と大統領制を比較し、議論を通して学ぶことで、それぞれの政治観について概念化を図る授業を目指します。	合志市立西合志南中学校 中牟田 進 熊本市立下益城城南中学校 矢部 彰人	熊本大学教育学部 教授 藤瀬 泰司
	数学	船山 英朗	1年	データの活用	今回は単元「データの活用」の授業を公開します。学校生活の一場面を設定し、生徒に「数学で学んでいることを使って解決できそうなことはないだろうか。」と投げかけ、数学的な見方・考え方を働かせながら解決を図る授業を提案したいと考えています。特に、現実の問題を数学の問題としてとらえる過程においては、必要な情報を生徒とともに整理し、解決の過程においては、根拠となることから取捨選択しながら誰もが納得できるような解決を図る授業を目指します。	熊本市立飽田中学校 越地 真人 菊陽町立武蔵ヶ丘中学校 藤本 真司 熊本市立城南中学校 椎葉 将大	熊本大学教育学部 准教授 吉村 昇
	理科	赤星 征典	3年	化学変化とイオン	これまで本校の理科で取り組んできた「見方・考え方を意識した単元デザイン」や「科学的根拠に基づいて説明を吟味すること」を踏襲し、より科学的に探究する生徒を育成を目指します。そのために「自らの学習」や「探究の過程」に批判的な思考を働かせながら、身に付けた知識・技能や探究スキルについて、生徒のメタ認知を促し、単元終盤で自ら探究を進めているよう単元をデザインしています。今回は、目の前の電池に関する事象について、質的・実体的な見方を働かせ、比較したり、条件制御したりしながら、生徒が自ら科学的に探究できるための知識・技能を習得させていく授業を目指します。	八代郡氷川町及び八代市中学校組合立 水川中学校 友田 崇人 熊本市立長嶺中学校 川田 裕貴 山鹿市立山鹿中学校 布田 賢次郎	熊本大学教育学部 教授 渡邊 重義
	音楽	米満 繁	1年	場面にあった音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目的として、音楽表現の楽しさを実感することのできる生徒の姿を目指します。今回の授業では、風景を描いた美術作品から得られる、自分のイメージを音の重なり方や構成を工夫しながら創作をします。これまでの歌唱や鑑賞の授業で身に付けた知識を活用しながら音楽をつくり、今後、新たに会える音楽にも自ら探究していく授業を目指します。	熊本市立北部中学校 野村 博幸 熊本市立出水中学校 高野 理沙 熊本市立天明中学校 米田 衣里	熊本大学教育学部 教授 山崎 浩隆
	美術	古閑 健育	2年	形と色の挑戦	造形的な見方・考え方を働かせながら学んでいく生徒の育成を目的とし、中学卒業後もその時代や文化の違いに対応しながら美術や美術文化と豊かに関わっていく生徒の姿を目指します。今回の授業では、岡本太郎の抽象作品を鑑賞し、作者の心情や工夫などを感じ取る授業を公開します。一人では気づくことができない多様な見方や感じ方を通して鑑賞を深め、生徒の中に抽象作品に対する新しい価値をつくりだしていく授業を目指します。	熊本市立三和中学校 村田 崇 御船町立御船中学校 野口 良美 熊本市立京陵中学校 伊藤 亜希子	熊本大学教育学部 教授 喜久山 悟
	保健体育	山崎 香織	1年	球技 ゴール型 ハンドボール	生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していくための資質・能力の育成を目的として、運動種目に関わる中で、生徒一人一人が成長や学びを実感することができる姿を目指します。今回は、本校保健体育科が考える「体育の学び方」を体得していくために、ハンドボールを通して、チームにおける自己の役割や自己の課題を発見し、課題解決に向けて試行錯誤しながら学びを深めていく授業を目指します。	熊本市立出水南中学校 福田 晃平 熊本市立城南中学校 本田 七菜子	熊本大学教育学部 教授 坂下 玲子
	技術	内田 有亮	2年	エネルギー変換の技術による問題解決 ～問題解決の評価、改善、修正～	技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力の育成を目的とし、生徒が学びを発揮する授業を見据えた授業を提案します。具体的には、生徒が技術の見方・考え方を働かせながら、製作したLEDライトについて評価し、改善点を見出す中で、自分の考えを広げたり深めたりする授業を目指します。	熊本市立竜南中学校 竹財 大輝 山都町立清和中学校 西 陽平	熊本大学教育学部 教授 田口 浩継
	家庭	上國科由己子	3年	地域との協働をめざして	人や社会を幸せにする「よりよい生活」とは何だろうか。実践「地域の人々との協力・協働プロジェクト」を通して、見方・考え方を働かせながら論理的に考えていきます。地域の人々と協働することで自分の生活や社会がどう変わるのか、これまでの学びを相互に関連させて課題を解決し、共生の視点で考えを広げ深めていきます。正解のない問いに対して自らの最適解を創りだし、よりよく生きることに繋がる学びの総括となる授業を目指します。	合志市立合志楓の森中学校 小山 裕子 熊本市立東部中学校 島田 亜希子 天草市立御所浦中学校 岩崎 由美	熊本大学教育学部 教授 宮瀬 美津子 八幡 彩子
英語	財部 裕一郎	1年	Unit 9 Think Globally, Act Locally	主体的な学びを促す指導を通して、生徒自らが、目標の達成のため、目的・場面・状況等に応じて必要な内容・表現を修正していく力を育むことは、生徒が見方・考え方を自在に働かせることにつながると考えています。今回の授業では、言語活動の中で、目的・場面・状況等に応じて生徒が自身の学びを調整し、その過程で様々な話題について自分事として捉え、考えを伝え合う授業を目指します。	熊本市立出水南中学校 浜元 里菜子 嘉島町立嘉島中学校 田上 裕登	熊本大学教育学部 准教授 岡崎 伸一	
実践発表	学校保健	河嶋 里亜	学校保健の視点から、「自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒」を考えたとき、私は、他者と関わりながら、主体的に考え行動し、より健康、安全に生きていこうとする前向きな気持ちを持ち、たとえ逆境に陥っても状況を打開していく、そのような生徒を育てたいと願います。そのために、自他の健康に影響を及ぼさず意思決定や行動をより強くコントロールできるようになるプロセスに着目しました。今回は、日々の関わりや健康相談を中心に、個々の生徒のエンパワメントを支える取組を提案します。	玉名市立玉南中学校 内田 容子 熊本市立桜木中学校 松岡 美里 熊本市立芳野中学校 浮田 奈次子	熊本大学教育学部 教授 久保 昌子		